

ピアノとトーク ラフマニノフと 正教会の鐘

マトフェイ土田定克

演奏曲目

前奏曲「鐘」 作品 3-2 嬰ハ短調

6つの楽興の時 作品 16

ピアノソナタ第 2 番 変ロ短調

音の絵 作品 39-9 ニ長調

ラフマニノフは敬虔な正教徒であった。
その作品には、永遠の神への希求、
世界への慈しみと悲しみ、それゆえの苦悩、
そして、喜びが溢れている。
ラフマニノフを愛し、ともに正教を生きる
ピアニスト土田定克が
愛といのちの喜びの詩を 語り 奏でる。

会場 大阪ハリストス正教会

阪急千里線豊津駅から徒歩 5 分、JR 吹田駅から徒歩 15 分

日時 2027 年 2月23日 (火・祝)

2:00 開演 (1:30 開場)

参加献金 1500 円 (全席自由) 100 席

予約開始 12 月 1 日



土田定克 (尚絅学院大学教授)

第 3 回ラフマニノフ国際ピアノコンクール第 1 位

お問い合わせ、ご予約は 大阪ハリストス正教会まで
Tel.06-6288-4512 osaka.orthodox.church@gmail.com



マトフェイ土田定克 プロフィール

1975年東京生まれ。桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコースを経てロシアに留学し、モスクワ音楽院卒業。同大学院修了。小西由紀子、坂田晴美、兼松雅子、A. ムンドヤンツ、V. メルジャノフに師事。第3回ラフマニノフ国際ピアノコンクール第1位（2002年）。ロシア各地、ウクライナ、クロアチア、タイ、韓国、香港等ははじめ、国内（東京文化会館、東京オペラシティ、カザルスホール、すみだトリフォニーホール、横浜みなとみらい、練馬文化センター、宮城県民会館）などでも演奏会多数。名指揮者V. フェドセーエフ率いるモスクワ放送交響楽団や、タブリク率いるHRT クロアチア放送交響楽団、三ツ橋敬子指揮、東京フィルハーモニー交響楽団始めザグレブ弦楽四重奏団など、オーケストラと室内楽との競演も多数。

CD「ラフマニノフ 24 のプレリュード」「ピアノ名曲集、乗り越えて」をリリース。自著『ラフマニノフを弾け』、同ロシア語版「Россия и Равманинов глазамского музыканта」（2016）、『ラフマニノフに聴く演奏の極意、溢奏』（2023）を上梓。親善的な演奏活動に対し、ペルミ市長（ロシア、2016）や韓国の郡山警察署長（2016）、ウクライナの第2代大統領クチマ（2016）から功労感謝状授与。翻訳、共著多数。

2015年大阪ハリストス正教会で「ラフマニノフと正教会」を講演演奏。

現尚絅学院大学教授。宮城学院女子大学音楽科非常勤講師。

仙台ハリストス正教会信徒、聖歌指揮者。



正教会の鐘について

正教会と言えば「鐘」。お茶の水の復活大聖堂（通称ニコライ堂）は戦前から「ニコライの鐘」で知られ、歌にもなりました。函館のハリストス正教会は「ガンガン寺」と呼ばれ、親しまれてきました。

鐘は礼拝の時を知らせ、要人の来訪や教会メンバーの永眠、火事や洪水などの事件を告げるだけでなく、その響きには悪の力や悪魔の誘惑を退け、打ち砕くための神の恩寵が溶け込んでおり、信仰を強め、励ます働きがあると信じられてきました。

多くの場合、音程の異なる複数の組み鐘で構成され、ニコライ堂では16個、函館や大阪は6個組で、ロープで繋ぎ、一人または何人かで息を合わせて演奏します。

一番大きな鐘、最も低い音の鐘をゆっくり鳴らすのはロシア語でブラゴヴェスチ、「よき知らせ」すなわち「福音」と特別の名前で呼ばれます。

鐘奏者は聖職者に準ずる役職で、打鐘前には必ず司祭（主教）の祝福を受け、鐘に鑄込まれたアイコンに向かって十字を描き、拝礼してから打ち始めます。

鐘の主成分は銅と錫で、さらに銀、金などを加えます。帝政ロシア時代には、いつ、どこで鐘を作るという布告に人々が集まり、型に流し込む金属を溶かす溶鉱炉の前で祈祷が献ぜられ、善男善女は金貨銀貨、貴金属を惜しみなく投入しました。印象的な鐘製作シーンがタルコフスキーの名作、映画「アンドレイ・ルブリョフ」に描かれています。

正教徒にとって、鐘の音は生活の一部、神からの呼び声、喜びの音です。

正教会の鐘
聴いてみよう



1904年、ニコライ堂の鐘楼。
着物、草履姿で打鐘。
（東京復活聖堂画帖から）



ニコライ堂の鐘



大阪教会の鐘



1910年、ロシアから贈られた大鐘、
4面に浮き彫りアイコン。1945年空襲により落下、破損。現在は聖堂脇に安置。（大阪教会）